

授業科目	コンピュータ概論		単位/時間	141時間				
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	橋本 貴之				
授業の目的・テーマ	コンピュータの「基礎理論に関する知識」について幅広く学習する。							
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験2級1部、3級 国家試験：基本情報技術者試験 科目A免除試験							
授業の計画	1	2h	テキストⅠ	基礎理論(1-1~1-2)	26	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その6
	2	4h	テキストⅠ	基礎理論(1-3~1-6)	27	2h	テキストⅡ	データベース(2-1~2-3)
	3	3h	テキストⅠ	基礎理論(1-7~1-10)	28	2h	テキストⅡ	データベース(2-4~2-6)
	4	3h	テキストⅠ	基礎理論(1-11~1-13)	29	3h	テキストⅡ	データベース(2-7~2-10)
	5	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その1	30	2h	テキストⅡ	データベース(2-11~2-12)
	6	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その2	31	3h	テキストⅡ	データベース(2-13~2-15)
	7	1h	テキストⅠ	アルゴリズムとプログラミング(2-1~2-6)	32	2h	テキストⅡ	確認問題演習 その1
	8	1h	テキストⅠ	アルゴリズムとプログラミング(2-14~2-17)	33	3h	テキストⅡ	ネットワーク(3-1~3-5)
	9	3h	テキストⅠ	コンピュータ構成要素(3-1~3-3)	34	3h	テキストⅡ	ネットワーク(3-6~3-10)
	10	3h	テキストⅠ	コンピュータ構成要素(3-4~3-6)	35	2h	テキストⅡ	ネットワーク(3-11~3-13)
	11	3h	テキストⅠ	コンピュータ構成要素(3-7~3-8)	36	2h	テキストⅡ	確認問題演習 その2
	12	3h	テキストⅠ	コンピュータ構成要素(3-9~3-10)	37	3h	テキストⅡ	セキュリティ(4-1~4-3)
	13	2h	テキストⅠ	コンピュータ構成要素(3-11~3-12)	38	3h	テキストⅡ	セキュリティ(4-4~4-6)
	14	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その3	39	3h	テキストⅡ	セキュリティ(4-7~4-9)
	15	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その4	40	2h	テキストⅡ	確認問題演習 その3
	16	2h	テキストⅠ	システム構成要素(4-1~4-3)	41	44h	問題演習	
	17	2h	テキストⅠ	システム構成要素(4-4~4-5)	42			
	18	2h	テキストⅠ	システム構成要素(4-6~4-7)	43			
	19	2h	テキストⅠ	確認問題演習 その5	44			
	20	2h	テキストⅠ	ソフトウェア(5-1~5-3)	45			
	21	2h	テキストⅠ	ソフトウェア(5-4~5-5)	46			
	22	2h	テキストⅠ	ソフトウェア(5-6~5-7)	47			
	23	4h	テキストⅠ	ソフトウェア(5-8~5-11)	48			
	24	3h	テキストⅠ	ソフトウェア(5-12~5-13)	49			
	25	3h	テキストⅠ	ハードウェア(6-1~6-3)	50			
授業の方法	講義を中心に行う。後半では問題演習を行い、全体的な理解度を高める。							
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅠ【ベーステクノロジー編】 TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】							
参考文献	TAC午前対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集							
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト							
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○							
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。							
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。							
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。							

授業科目	プログラミング		単位/時間	72時間		
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	岡田 恭平		
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験で出題される擬似言語を学び、プログラムの流れを把握・理解出来るようにする 各種検定に出題される疑似言語の問題に対応するための基礎的な力を養う					
授業の到達目標	基本情報技術者試験科目Bで出題される疑似言語の問題を読解できる力を身に付ける					
授業の計画	1	1h	アルゴリズムとは何か	26	2h	キュー
	2	2h	変数と定数	27	2h	ハッシュ表
	3	2h	基本制御構造その1 順次と分岐	28	2h	木
	4	1h	変数どうしの内容の交換	29	2h	2分探索木
	5	2h	基本制御構造その2 繰返し	30	2h	ヒープ
	6	2h	繰返しを用いた簡単な処理	31	2h	木の巡回
	7	2h	引数と返却値	32	1h	B木
	8	2h	配列と繰返し処理	33	1h	グラフ
	9	2h	2次元配列	34	2h	最短経路探索
	10	2h	計算量	35	2h	オブジェクト指向の基礎知識
	11	2h	最大値・最小値	36	2h	オブジェクト指向を活用したプログラム
	12	2h	線形探索	37	1h	ファイル処理
	13	2h	2分探索	38	1h	ファイルの併合
	14	2h	選択法	39	1h	ファイルの突合せ
	15	2h	交換法	40	1h	コントロールブレイク
	16	2h	挿入法	41		
	17	2h	再帰	42		
	18	2h	クイックソート	43		
	19	2h	その他の整列アルゴリズム	44		
	20	2h	文字列の照合	45		
	21	2h	文字列の置換	46		
	22	2h	文字列の圧縮	47		
	23	2h	データ構造の基礎知識	48		
	24	2h	リスト	49		
	25	2h	スタック	50		
授業の方法	講義を中心に行う。練習問題及び解説を実施し、理解度を高める					
テキスト	基本情報技術者 試験対策テキストIV【アルゴリズム編】					
参考文献	基本情報技術者科目B試験対策問題集【TAC】他					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する 1.出席率 2.授業態度 3.期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○		
実務経験	SEとしてシステム開発の経験を有する					
実務経験の活かし方	プログラミングの要であるアルゴリズムの重要性を伝えるとともに、処理の流れを丁寧に解説する					
履修上の注意事項	講義で得た知識を、練習問題を解くときに活用するように意識すること					

授業科目	システム開発	単位/時間	28時間		
開講学科等	情報システム学科 1年	担当教員	橋本 貴之		
授業の目的・テーマ	コンピュータの「システム開発分野に関する基礎知識」について学習する。				
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験 2級 1部、3級 国家試験：基本情報技術者試験 科目A免除試験				
授業の計画	1	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-1)	26	
	2	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-2)	27	
	3	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-3)	28	
	4	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-4)	29	
	5	2h	テキストⅡ ヒューマンインタフェースとマルチメディア(1-1～1-4)	30	
	6	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-5, 5-6)	31	
	7	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-7)	32	
	8	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-8)	33	
	9	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-9)	34	
	10	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-10, 5-11)	35	
	11	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-1～6-3)	36	
	12	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-4～6-5)	37	
	13	4h	テキストⅡ 確認問題演習	38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】				
参考文献	TAC午前対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する	○				
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。				
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。				

授業科目	情報管理と情報戦略		単位/時間	81時間		
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	中川 隆		
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験の範囲、マネジメントとストラテジについて、各種技法と計算方法、用語を理解する。					
授業の到達目標	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査、システム戦略、経営戦略、企業活動、法務の用語の意味を説明できる。各種技法の計算ができる。					
授業の計画	1	3h	プロジェクトマネジメントとは、PMBOKの概要、統合マネジメント	26	3h	前期試験復習
	2	3h	スコープマネジメント、スケジュールマネジメント（作業量）	27	3h	前期試験復習、前期試験
	3	3h	スケジュールマネジメント（PERT、その他ツール）	28		
	4	3h	コストマネジメント、品質マネジメント	29		
	5	3h	リスクマネジメント、調達マネジメント、サービスマネジメント	30		
	6	3h	システム運用の基礎、サービス運用とサービス移行のプロセスと機能	31		
	7	3h	サービス戦略とサービス設計のプロセス1	32		
	8	3h	サービス戦略とサービス設計のプロセス2	33		
	9	3h	システム監査の概要、システム監査の実施	34		
	10	3h	情報システム戦略、ビジネスモデルとエンタープライズアーキテクチャ	35		
	11	3h	業務プロセス、ソリューションビジネス	36		
	12	3h	システム活用促進・評価、システム化計画、要件定義	37		
	13	3h	経営戦略の基礎知識、経営戦略手法	38		
	14	3h	経営戦略手法、マーケティング	39		
	15	3h	マーケティング	40		
	16	3h	マーケティング、ビジネス戦略	41		
	17	3h	経営管理システム、技術開発戦略	42		
	18	3h	ビジネスシステム、エンジニアリングシステム、e-ビジネス	43		
	19	3h	経営・組織論、IEとOR	44		
	20	3h	IEとOR	45		
	21	3h	品質管理の技法	46		
	22	3h	財務会計	47		
	23	3h	減価償却とリース、損益分岐点分析	48		
	24	3h	原価の計算、知的財産権、セキュリティ関連法規	49		
	25	3h	労働関連・取引関連法規、その他の関連法規	50		
授業の方法	講義					
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅢ マネジメントと戦略編					
参考文献	なし					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 2. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○		
実務経験	プログラマー・SEとしてIT企業で勤務し、開発・保守業務に携わる。					
実務経験の活かし方	マネジメントやストラテジ技術が仕事の中でどのように使われているか具体例を挙げ説明する。					
履修上の注意事項	略語は英語のフルスペルと訳した意味の両方を覚える。配布する練習問題を保存していくこと。					

授業科目	パソコン実習 I 【前期】		単位/時間	30時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	植田 祥平	
授業の目的・テーマ	様々なビジネスシーンで使用される E x c e l の基本を学び、活用できるよう指導する。				
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級の合格を目指す。(後期に受験)				
授業の計画	1	2h	1章 E x c e l の基礎知識	26	
	2	3h	2章 E x c e l 入門	27	
	3	4h	3章 ワークシートの活用(1)	28	
	4	5h	4章 ワークシートの活用(2)	29	
	5	3h	5章 グラフ(1)	30	
	6	3h	6章 グラフ(2)	31	
	7	5h	7章 データベース	32	
	8	5h	8章 E x c e l の応用	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	実技を中心に行う。				
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016				
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級 問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。				
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。				

授業科目	パソコン実習 I 【後期】		単位/時間	56時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	植田 祥平	
授業の目的・テーマ	E x c e l 2 0 1 6 の基本的な操作方法と応用方法を習得する。				
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級の合格を目指す。				
授業の計画	1	3h	練習問題1 (実践と解説)	26	
	2	3h	練習問題2 (実践と解説)	27	
	3	3h	練習問題3 (実践と解説)	28	
	4	3h	模擬問題1 (実践と解説)	29	
	5	3h	模擬問題2 (実践と解説)	30	
	6	3h	模擬問題3 (実践と解説)	31	
	7	3h	模擬問題4 (実践と解説)	32	
	8	3h	模擬問題5 (実践と解説)	33	
	9	3h	模擬問題6 (実践と解説)	34	
	10	3h	模擬問題7 (実践と解説)	35	
	11	3h	模擬問題8 (実践と解説)	36	
	12	3h	模擬問題9 (実践と解説)	37	
	13	3h	模擬問題10 (実践と解説)	38	
	14	3h	模擬問題11 (実践と解説)	39	
	15	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	40	
	16	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	41	
	17	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	42	
	18	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	43	
	19	2h	課題作成	44	
	20	2h	課題作成	45	
	21	2h	課題作成	46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	実技を中心に行う。				
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016				
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3級 問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたい内容について、実例を用いてイメージさせる。				
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。				

授業科目	C言語 I【前期】		単位/時間	58時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	C言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学ぶ。				
授業の到達目標	サーティファイC言語プログラミング能力認定試験 3級程度の問題を読解できる力を身に付ける。				
授業の計画	1	2h	C言語とは	26	
	2	2h	変数の宣言と型	27	
	3	3h	変数の代入	28	
	4	2h	標準入力と標準出力①	29	
	5	3h	算術演算と型変換	30	
	6	3h	論理演算子	31	
	7	3h	ビット演算子	32	
	8	3h	1次元配列と2次元配列	33	
	9	4h	判断命令 if・三項演算子	34	
	10	4h	繰返し while	35	
	11	4h	繰返し do-while	36	
	12	4h	繰返し for	37	
	13	3h	文字列操作	38	
	14	3h	標準入力と標準出力②	39	
	15	3h	関数の基本・マクロ	40	
	16	3h	標準ライブラリ関数	41	
	17	3h	構造体・列挙体・共用体	42	
	18	3h	ポインタ	43	
	19	3h	ファイル操作	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	課題に沿ったプログラム作成など、実習を中心とする。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング【ウィネット】				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.小テスト及び期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。				
実務経験の活かし方	プログラミングする上で配慮すべき点などを経験をふまえて具体的に説明する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るよう心がけること。				

授業科目	C言語 I【後期】	単位/時間	26時間			
開講学科等	情報システム学科 1年	担当教員	篠原 章彦			
授業の目的・テーマ	実機での実習を中心に行うことで、前期中に習得したC言語の知識・技術をより具体的なものにする。					
授業の到達目標	標準的な統合開発環境 (IDE) の操作方法及び、プログラミングの作法を習得する。					
授業の計画	1	1h	VisualStudio操作方法	26		
	2	1h	データ型・変数と標準入出力 実習①	27		
	3	2h	データ型・変数と標準入出力 実習②	28		
	4	2h	演算子(計算処理) 実習	29		
	5	2h	if文 実習①	30		
	6	2h	if文 実習②	31		
	7	2h	while・for・do-while文 実習①	32		
	8	2h	while・for・do-while文 実習②	33		
	9	2h	while・for・do-while文 実習③	34		
	10	1h	switch・break・continue文 実習①	35		
	11	1h	switch・break・continue文 実習②	36		
	12	2h	配列 実習	37		
	13	2h	2次元配列 実習	38		
	14	2h	配列(文字列) 実習①	39		
	15	2h	配列(文字列) 実習②	40		
	16			41		
	17			42		
	18			43		
	19			44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	課題に沿ったプログラム作成など、実習を中心とする。					
テキスト	無し					
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング【ウィネット】					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 (20%) 2. 授業進捗 (20%) 3. 期末テストまたは課題提出 (60%)					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。					
実務経験の活かし方	プログラミングする上で配慮すべき点などを経験をふまえて具体的に説明する。					
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るように心がけること。					

授業科目	Windows利用技術 I		単位/時間	12時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	植田 祥平	
授業の目的・テーマ	コンピュータを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解する。				
授業の到達目標	コンピュータの性能調査や、Windowsパソコンの自作等ができるレベルを目標とする。				
授業の計画	1	1h	授業内容説明・パソコンの構成について	26	
	2	1h	パソコンを構成するパーツ・CPUについて	27	
	3	2h	マザーボードについて	28	
	4	2h	メモリについて	29	
	5	2h	HDD/SSDについて	30	
	6	2h	光学ドライブ・ビデオボード・ケース等について	31	
	7	2h	各種周辺機器について	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	無し				
参考文献	intel 及び Microsoft 等のホームページ など				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	運用・保守業務経験をもとにPCに必要なパーツやその役割を解説する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるため、メモを取ることが重要である。				

授業科目	プレゼンテーション I	単位/時間	30時間		
開講学科等	情報システム学科 1年	担当教員	植田 祥平		
授業の目的・テーマ	標準的なプレゼンテーションツールであるMicrosoft PowerPointの操作方法、資料・スライドの作成方法、プレゼンテーション時における作法を習得する。				
授業の到達目標	意図に即した内容構築と効果的なプレゼンテーションができるようにする。				
授業の計画	1	3h	テキスト第2章 PowerPointを使ったプレゼンテーション	26	
	2	3h	テキスト第3章 プレゼンテーションのテクニック	27	
	3	3h	自己紹介ストーリー作りシート説明	28	
	4	3h	自己紹介ストーリー作りシート作成①	29	
	5	3h	自己紹介ストーリー作りシート作成②	30	
	6	4h	自己紹介プレゼンテーション資料作成①	31	
	7	4h	自己紹介プレゼンテーション資料作成②	32	
	8	7h	プレゼンテーションの実施① 10分×31人	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義後、学生一人一人が課題に沿ったプレゼンテーション内容を組み立て、発表を行う。				
テキスト	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. プレゼン内容				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○		
実務経験	銀行システムのシステム運用・保守にて、障害やシステムアップデートに伴う運用方針変更など臨機応変に業務に従事。直接お客様と折衝しPC上で発生している不具合を解決する。				
実務経験の活かし方	実際にあった折衝経験をもとにビジネス例を解説する。				
履修上の注意事項	自分の将来に直結する科目であるため、真剣に受講すること。				

授業科目	データベース I		単位/時間	47時間	
開講学科等	情報システム学科 1 年		担当教員	岡田 恭平	
授業の目的 ・テーマ	関係データベースで必要となる基本的なSQL文を習得する。				
授業の 到達目標	SQLの基本的な文法を習得し、データベース操作ができるようになる。 前半は講義形式で行っていき、後半からは演習を行っていく。				
授業の 計画	1	3h	データベースとは 正規化について①	26	
	2	3h	正規化について② E-R図について	27	
	3	3h	SELECT文①	28	
	4	3h	SELECT文②	29	
	5	3h	副問い合わせ	30	
	6	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文	31	
	7	2h	CREATE TABLE文	32	
	8	3h	SELECT文実習①	33	
	9	2h	SELECT文実習②	34	
	10	3h	SELECT文実習③	35	
	11	3h	SELECT文実習④	36	
	12	3h	SELECT文実習⑤	37	
	13	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文実習	38	
	14	3h	CREATE TABLE文実習①	39	
	15	3h	総合演習①	40	
	16	2h	総合演習②	41	
	17	2h	期末演習課題	42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・演習を中心に行う。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理教科書データベーススペシャリスト・データベーススペシャリスト試験過去問題				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	SEとしてシステム開発の経験を有する				
実務経験の 活かし方	プログラミングの要であるアルゴリズムの重要性を伝えるとともに、処理の流れを丁寧に解説する				
履修上の 注意事項	復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること。				

授業科目	簿記	単位/時間	65時間			
開講学科等	情報システム学科1年	担当教員	篠原 章彦			
授業の目的・テーマ	商業簿記の基礎知識習得					
授業の到達目標	全経簿記能力検定3級の取得					
授業の計画	1	3h	簿記とは、貸借対照表、損益計算書	26		
	2	3h	仕訳の基本、勘定と転記	27		
	3	3h	現金と預金、当座預金、商品売買、掛取引	28		
	4	3h	返品、費用・収益、約束手形	29		
	5	3h	手形貸付金・借入金、その他の債権債務	30		
	6	3h	その他の債権債務、現金過不足	31		
	7	3h	消費税、租税公課、有価証券	32		
	8	3h	有形固定資産、株式の発行	33		
	9	3h	貸倒の見積り、消耗品費、帳簿の締切	34		
	10	5h	仕訳の復習	35		
	11	5h	清算表	36		
	12	5h	清算表・仕訳の復習	37		
	13	2h	財務諸表	38		
	14	2h	計算問題	39		
	15	2h	3伝票制	40		
	16	2h	商品有高帳	41		
	17	5h	清算表・仕訳の復習	42		
	18	8h	答案練習	43		
	19	2h	後期試験	44		
	20			45		
	21			46		
	22			47		
	23			48		
	24			49		
	25			50		
授業の方法	講義及び答案練習					
テキスト	全経簿記能力検定3級テキスト及び全経簿記能力検定3級問題集					
参考文献	全経簿記3級過去問題					
評価の方法や基準	出欠席、授業態度、課題の提出、答案練習結果、学期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						
実務経験						
実務経験の活かし方						
履修上の注意事項	復習を行い、各章でわからない分に関しては都度解決していくこと					

授業科目	一般常識		単位/時間	21時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	岡田 恭平	
授業の目的・テーマ	就職試験の筆記試験対策の一環として、とくによく出題される分野の基本的な部分について重点的に問題練習を行なうとともに、生活のなかで役に立つ常識を身につける				
授業の到達目標	就職活動における筆記試験合格				
授業の計画	1	3h	損益算	26	
	2	3h	料金算	27	
	3	3h	仕事算	28	
	4	3h	速度算	29	
	5	3h	濃度算	30	
	6	3h	推論、命題、図形	31	
	7	3h	復習、後期試験	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	問題演習を中心に行い、都度解説する				
テキスト	一般常識 チェック&マスター (実教出版)				
参考文献	各種問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	復習を行い、わからない分に関しては都度解決していくこと				

授業科目	国家試験対策(情報セキュリティ)		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	2h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(アルゴリズム)		単位/時間	54時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	森下 浩二	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	3h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストIVアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(オブジェクト指向)		単位/時間	16時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	内藤 正勝	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(模擬試験)		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	ビジネス実務 I (担任)		単位/時間	27時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	岡田 恭平	
授業の目的 ・テーマ	就職活動をするにあたり、大まかなスケジュールの把握や自己分析を行う また、就職活動のための事前知識を習得し、能動的な就職活動ができるようにする				
授業の 到達目標	自身が目指したい職種を自覚し、限られたスケジュールの中で、情報収集のために自分から行動できるようにする				
授業 の 計 画	1	2h	就職活動の目的	26	
	2	2h	自己分析 その①	27	
	3	3h	社会人に必要な力	28	
	4	2h	県外・県内の就職	29	
	5	4h	業種・職種の紹介	30	
	6	2h	勤務形態について	31	
	7	1h	企業情報の見方	32	
	8	2h	求人票の見方	33	
	9	2h	自己分析 その②	34	
	10	2h	志望動機	35	
	11	3h	自己PR	36	
	12	2h	就職先調査	37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。また、授業外でも学習・活動するように促す				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する 1. 出席率 2. 授業態度				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の 活かし方					
履修上の 注意事項	社会人となるための基礎的な知識を学習する科目であるため、真剣に受講すること				

授業科目	ビジネス実務 I (マナー等)			単位/時間	26時間			
開講学科等	情報システム学科1年			担当教員	田中 佳代			
授業の目的・テーマ	人間にとっての最大のテーマである人間関係。これを円滑にする方法を頭で知るだけに留まらず、実際に身に着けているか否かで社会人としての日常生活が著しく異なります。よりよい人間関係を育むことができる人はどう考えているのかを学び、ワークを通じて実際に行動でき、信頼される人になることを目的としています。							
授業の到達目標	相手のことを考えるのは当然のことですが、その前にまず自分を良く知ることが大切です。自分の心の中に潜む問題と向き合い、解決することで人間関係の問題はほとんど解決します。「内側」に「揺るがない自分軸」を作り、身なりや、立ち居振る舞い等「見せる」部分もしっかりイメージできるようにすることを目標とします。							
授業の計画	1	4/16	1h	OR 人間関係・恐れと喜びその1	26	1/27	1h	復習/来客対応
	2	4/23	1h	人間関係・恐れと喜びその2	27			
	3	4/30	1h	マナーの大切さとは何か	28			
	4	5/7	1h	立ち居振る舞いの基本	29			
	5	5/14	1h	立ち居振る舞いの基本	30			
	6	5/21	1h	立ち居振る舞いの基本	31			
	7	5/28	1h	丁寧な言葉遣い	32			
	8	6/4	1h	丁寧な言葉遣い	33			
	9	6/11	1h	丁寧な言葉遣い	34			
	10	6/18	1h	丁寧な言葉遣い	35			
	11	6/25	1h	丁寧な言葉遣い/電話対応	36			
	12	7/2	1h	丁寧な言葉遣い/電話対応	37			
	13	7/9	1h	来客対応	38			
	14	7/16	1h	来客対応	39			
	15	10/29	1h	マナーの大切さ・就職研修に向けて	40			
	16	10/29	1h	就職研修に向けて	41			
	17	11/5	1h	就職研修に向けて	42			
	18	11/5	1h	就職研修に向けて	43			
	19	11/12	1h	就職研修に向けて	44			
	20	11/12	1h	就職研修に向けて	45			
	21	11/19	1h	就職研修に向けて	46			
	22	11/19	1h	就職研修に向けて	47			
	23	1/21	1h	復習/電話対応	48			
	24	1/21	1h	復習/電話対応	49			
	25	1/27	1h	復習/来客対応	50			
授業の方法	レクチャー・ロールプレイング・グループワーク							
テキスト	日本マナー・プロトコル協会 マナー・プロトコル基礎知識							
参考文献	ウィネット 実践ビジネスマナー、他							
評価の方法や基準	出席率・態度・身だしなみ・授業への取り組み方・課題・テスト類 複数の担当教員が受けもつ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する							
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○		
実務経験	航空会社(国際線)においてお客様対応、予備校校舎において受付・電話対応および生徒の面接指導を担当							
実務経験の活かし方	社会人としての心構えやマナー、コミュニケーション、来客対応や電話対応などのレクチャーや演習に活かす							
履修上の注意事項	これまで「出来ていたこと」と「出来ていなかったこと」を知り、「出来ていなかったこと」に対しては改善する素直さと、果敢にチャレンジする態度を求める							

授業科目	ビジネス実務 I (就職研修)		単位/時間	28時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	岡田 恭平	
授業の目的・テーマ	学生の就職に対する意識を高め、意欲をかき立てる 入社試験形式での個人面接・集団面接練習及び筆記・作文模擬試験を行い、学生が希望する企業の入社試験に対する準備を行う				
授業の到達目標	希望する業界・職種・企業の就職試験に自信を持って挑めるようにする				
授業の計画	1	3h	先輩の就職活動(講話)・質疑応答	26	
	2	4h	文字(履歴書)の書き方	27	
	3	3h	個人面接①練習、筆記・作文模擬試験	28	
	4	3h	個人面接① フィードバック	29	
	5	3h	個人面接②練習、筆記模擬試験	30	
	6	4h	集団面接練習、作文模擬試験	31	
	7	4h	個人面接②、集団面接 フィードバック	32	
	8	4h	合同就職セミナー参加	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	練習(実習)、フィードバック(講義)、セミナー参加				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業への取り組み状況 ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自分の将来に直結する科目であるため、真剣に受講すること				